✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧

✧　世界の主要温室効果ガス濃度は過去最高値

～WMO 温室効果ガス年報第 6 号の発行～

気象庁は、世界気象機関（WMO）の温室効果ガス世界資料センター（World Data Centre for Greenhouse Gases: WDCGG）を運営しており、世界中で観測された温室効果ガスの観測データを収集・解析しています。今般、気象庁および世界の温室効果ガス専門家の協力により、2009 年 12 月までの世界の温室効果ガス観測データの解析が取りまとめられ、その結果が、WMO から 11 月 24 日に温室効果ガス年報（Greenhouse Gas Bulletin）第 6 号として発表されました。

今回発表された年報によると、大気中の主要な温室効果ガスである二酸化炭素（CO2）、メタン（CH4）及び一酸化二窒素（N2O）の 2009 年における世界平均濃度は、過去最高値を記録したことが分かりました。このうち近年増加傾向が頭打ちになっていたメタンは、2007 年以降 3 年連続で高い伸びとなりましたが、メタンが最近増加している原因は十分には分かっておらず、今後の見通しははっきりしないとしています。また、二酸化炭素も近年よりは増加量がわずかに小さいものの依然として増加が続いています。

本年報は、気候変動枠組条約第 16 回締約国会議（COP16）（11 月 29 日～12 月 10 日、メキシコ・カンクン）で配布される予定です。

WMO 温室効果ガス年報気象庁（和訳）は、以下の URL にてご覧になれます。

http://www.data.kishou.go.jp/obs-env/infohp/wdcgg/wdcgg_bulletin.html

（気象庁ホームページから）